

科目名	作詞・作曲 4							年度	2026
英語科目名	Songwriting and Composition 4							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 2年次	必/選	選	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	青野りえ		教員の実務経験	有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 オリジナル曲の根拠であるメロディーやコード、歌詞の創作方法を学ぶ。自分の楽曲のメロディーを譜面に記すスキルの習得、作詞作曲に関する実践的なテクニックの学習、リスナーの心に残るメロディーと歌詞の書き方を習得することで、自身の楽曲を向上させる方法を探求していく。									
【科目の概要】 オリジナル曲の根拠となるメロディーやコードと歌詞の創作方法を学びます。□									
【到達目標】 A. 5線紙に自分が作った楽曲のメロディーを16小節書き、メロディー譜面を作ることができる。 B. 作詞作曲における4種類の実践的なテクニックを学ぶ。 C. リスナーの心に残るようなメロディーの書き方と歌詞の書き方を学ぶことによって自分の楽曲をより良い形で完成させることができる。									
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう				レベル1 要努力		
到達目標 A	5線紙に自分が作った楽曲のメロディーを16小節書き、メロディー譜面を作ることができる		5線紙に自分が作った楽曲のメロディーを8小節書き、メロディー譜面を作ることができる					到達目標Aについてさらなる努力が必要	
到達目標 B	作詞作曲における4種類の実践的なテクニックを体得する		作詞作曲における2種類の実践的なテクニックを体得する					到達目標Bについてさらなる努力が必要	
到達目標 C	リスナーの心に残るようなメロディーの書き方と歌詞の書き方を学ぶことによって自分の楽曲をより良い形で完成させることができる		自分の楽曲を完成させることができる					到達目標Cについてさらなる努力が必要	
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 特になし									
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、授業内試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		作詞・作曲4			年度	2026
英語表記		Songwriting and Composition 4			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期復習	知識の再確認	1 前期復習	基礎知識の確認ができる	3	
			2 メロディー理論	前期内容の復習ができる		
			3 分析技法	理解度の自己評価ができる		
2	テンション活用	テンション活用	1 テンション理解	テンションノート理解ができる	3	
			2 メロディー制作	メロディー作成ができる		
			3 応用技法	クリエイティブ応用ができる		
3	メロディ穴埋め	発展的メロディ習得	1 穴埋め実践	穴埋め問題の作成ができる	3	
			2 発展理解	メロディ発展を説明できる		
			3 創作応用	実践的分析ができる		
4	アウフタクト法	アウフタクト応用	1 アウフタクト	アウフタクト利用ができる	3	
			2 フレーズ作法	歌詞フレーズ作成ができる		
			3 効果分析	効果的表現を理解できる		
5	非和声音学習1	非和声音理解1	1 非和声理論	経過音の使用ができる	3	
			2 経過音学習	刺繍音と倚音を識別できる		
			3 刺繍音習得	非和声音の理解が深まる		
6	非和声音学習2	非和声音理解2	1 非和声応用	保続音と先取音を利用できる	3	
			2 保続音理解	係留音と逸音を活用できる		
			3 先取音練習	非和声技法の応用ができる		
7	日本語ヒット分析	日本語曲の解析	1 日本語分析	日本語楽曲の分析ができる	3	
			2 ヒット曲研究	重要ポイントを抽出できる		
			3 重要部分把握	曲の特徴を認識できる		
8	英語ヒット分析	英語曲の解析	1 英語分析	英語楽曲の構造を理解できる	3	
			2 ポイント理解	言語特性の違いを学べる		
			3 楽曲構造把握	国際的視点の分析ができる		
9	作家vsシンガー	楽曲構造習得	1 職業作家研究	プロの技術を学べる	3	
			2 メロディー分析	既存のメロディーを分析できる		
			3 楽曲解釈	創作への理解が深まる		
10	アーティキュレーションと歌詞	アーティキュレーション1	1 アーティキュレーション	アーティキュレーション理解ができる	3	
			2 歌詞関係性	表現力の向上を図れる		
			3 表現技術	歌詞との連動を学べる		
11	アーティキュレーションと歌詞	アーティキュレーション2	1 アーティキュレーション応用	アーティキュレーション応用ができる	3	
			2 歌詞作法習得	歌詞作成技術が向上する		
			3 表現力向上	表現力が豊かになる		
12	日本語テクニック	歌詞技術の習得	1 日本語テクニック	日本語特有の響きを学べる	3	
			2 歌詞制作	日本語のリズムを理解できる		
			3 応用練習	歌詞への言語応用ができる		
13	楽曲制作	オリジナル制作	1 オリジナル制作	オリジナル歌詞の創作ができる	3	
			2 メロディー創出	オリジナルメロディーを作れる		
			3 歌詞創作	独自性のある作品を作れる		
14	自作曲提出	楽曲提出スキル	1 自作曲提出	自作曲の完成ができる	3	
			2 メロディー完成	メロディー譜の作成ができる		
			3 歌詞完成	歌詞の完成ができる		
15	まとめ	試験対策	1 全体まとめ	学んだ知識の統合ができる	3	
			2 知識統合	全体の復習ができる		
			3 制作技術確認	自己評価と反省ができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等